

令和8年度 第1四半期運用状況 (退職等年金給付積立金)



1. 令和8年度第1四半期運用状況の概要

運 用 利 回 り

0. 31%

(実現収益率)

運 用 収 入 額

16億円

(実現収益額)

運 用 資 産 残 高

5, 158億円

(簿価)

2. 令和8年度第1四半期の運用環境①

【第1四半期 令和8年4月～令和8年6月の運用環境】

➤ 株式市場

米国・イランの軍事紛争により、中東からのエネルギー供給路の要であるホルムズ海峡が封鎖されたため、エネルギー・石油関連製品の価格が上昇し、世界経済に与える影響は徐々に大きくなりました。しかし、紛争長期化による株価の調整があったものの、昨年秋以降から続いているAIブームやそれに関連した半導体製品、データセンターへの大規模投資を材料とした株価上昇がそうした影響を打ち消しました。さらに5月以降は、米国・イラン紛争の終結に向けた動きが加速したことなどを背景に株価上昇が続き、国内外で株価が最高値を更新する動きとなりました。6月下旬には日経平均で7万2000円台を記録しました。

➤ 債券市場（長期金利）

4月以降もエネルギー価格の上昇を背景としたインフレ懸念から、世界的に長期金利の上昇が続きました。5月には、政府が令和8年度補正予算を検討との報道から、財政悪化への警戒感や物価上振れに対する日銀の政策が後手に回るのではとの懸念が強まり、日本の10年国債利回りが一時2.8%を超える水準まで上昇しました。その後、米国とイランの間で戦闘停止に向けた交渉が進展との報道を材料に、金利水準は緩やかに低下しました。しかし、6月初めに公表された米雇用統計が堅調だったことを受け、米FRBが年内に利上げに向かう可能性があるとの見方から米国長期金利が上昇し、日本の長期金利も再び上昇しました。ただし、6月中旬に戦闘終結に向けた覚書締結をきっかけに、再び利回り低下が進み、6月末には10年国債利回りで2.6%台まで低下しました。

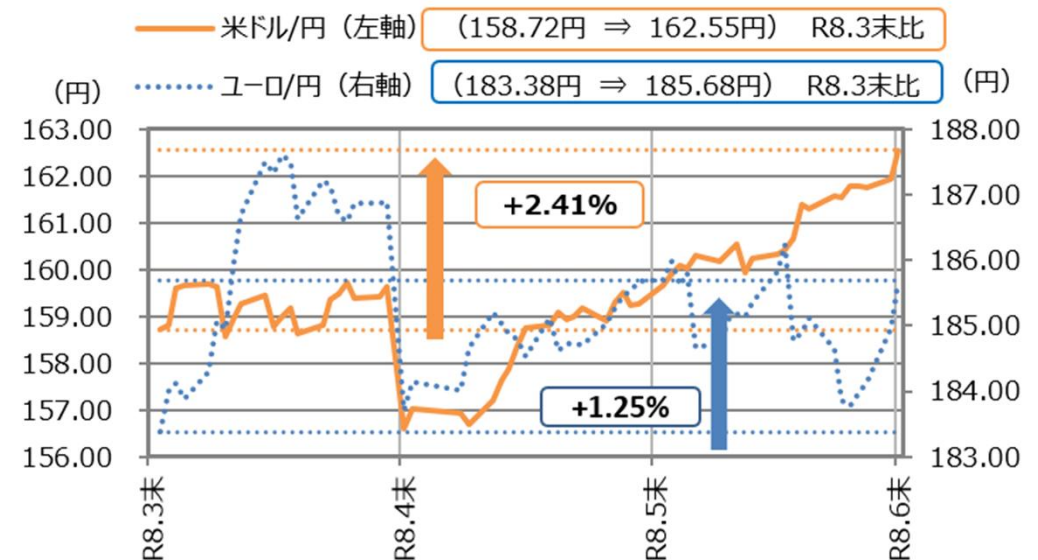
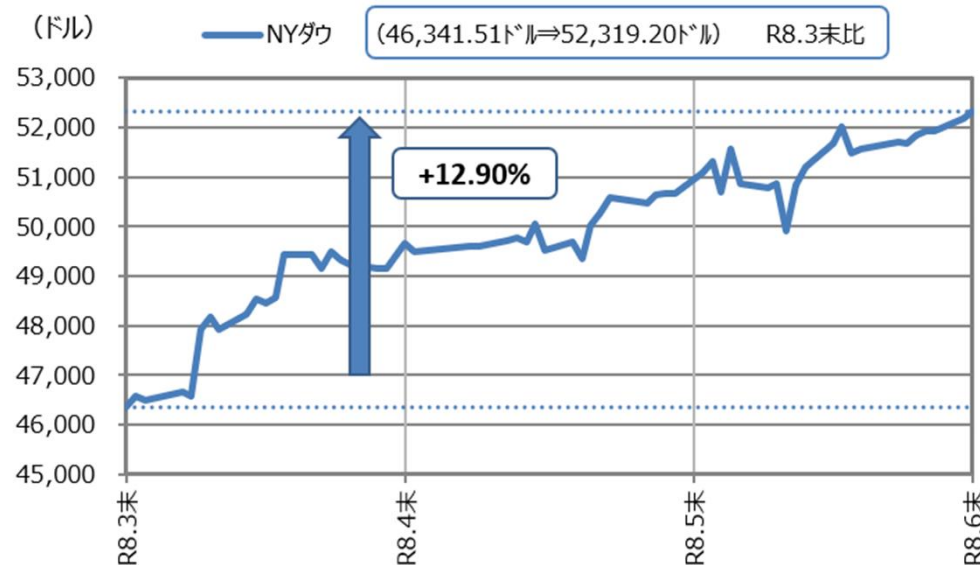
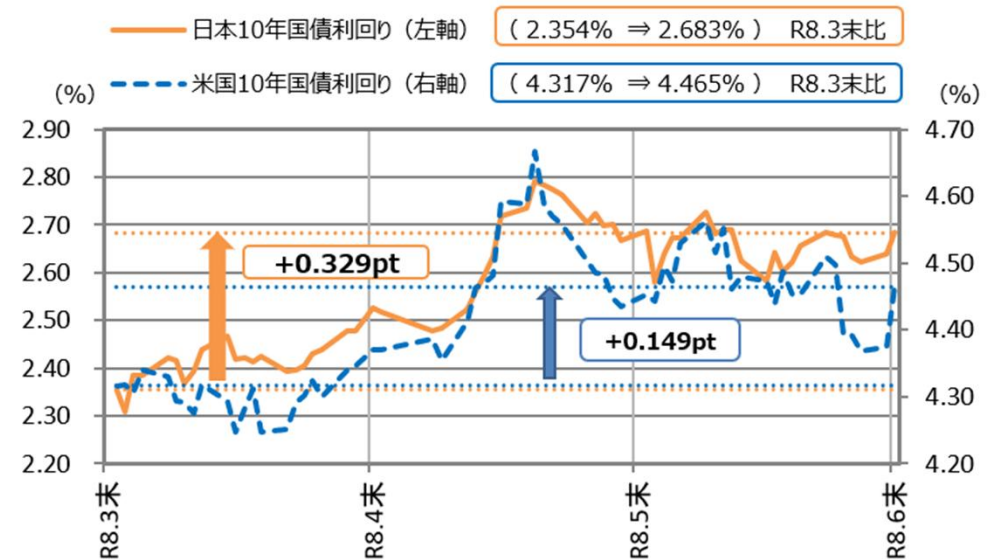
➤ 為替

4月中は、米国のインフレ懸念を背景とした金利上昇を背景にドル買いの動きが続き、円ドルレートは159円台まで円安が進みました。しかし、4月末に日本政府・日銀が円買いの為替介入を実施したことで、円ドルレートは155円台後半までの円高となりました。その後、米国での根強いインフレ懸念により、6月中旬の米金融政策決定会合において、政策金利見通しの中央値が年内1回の利上げを示唆する内容となり、金融引き締めによる日米の金利差拡大を意識した円売り・ドル買いが強まり、162円台へと円安が進みました。

参考指標

		R8年3月末	R8年6月末
国内債券	日本10年国債利回り (%)	2.35	2.68
国内株式	日経平均 (円)	51,063.72	70,062.32
外国債券	米国10年国債利回り (%)	4.32	4.47
	ドイツ10年国債利回り (%)	3.00	2.86
外国株式	NYダウ (ドル)	46,341.51	52,319.20
	DAX (Pt)	22,680.04	24,995.81
	上海総合 (Pt)	3,891.86	4,094.40
為替	ドル/円 (円)	158.72	162.55
	ユーロ/円 (円)	183.38	185.68

2. 令和8年度第1四半期の運用環境②



3. 収益率の状況

【退職等年金給付積立金の基本的な考え方】

キャッシュバランス方式を採用していることを踏まえ、10年国債利回り等を指標として設定される基準利率を確保可能な国内債券や貸付金を中心に、長期的な観点から安全かつ効率的に運用を行います。

※キャッシュバランス方式…一定の基準（給与の一定割合など）により算定された掛金に、定められた指標（国債利回りなど）に基づく利子を付与して加入者ごとの勘定残高を算定し、その勘定残高に見合った年金または一時金の給付を行う給付設計方式です。

（単位：％）

区 分	前年度	令和8年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
実現収益率	1.02	0.31				0.31
国内債券	1.02	0.31				0.31
国内株式	0.00	0.00				0.00
短期資産	0.33	0.00				0.00

（注1） 国内債券には、貸付金等を含みます。

（注2） 実現収益率は、当該期間中に委託手数料等が精算された場合には、これを控除しています。

（注3） 実現収益率は、各期間に係るものです。

4. 収益額の状況

(単位: 億円)

区 分	前年度	令和8年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
実現収益額	48	16				16
国内債券	48	16				16
国内株式	0	0				0
短期資産	0	0				0

(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 四捨五入の関係で、各数値の合算が合計値と一致しない場合があります。

(注3) 実現収益額は、当該期間中に委託手数料等が精算された場合には、これを控除しています。

(注4) 実現収益額は、各期間に係るものです。

5. 運用資産額(簿価)の状況

(単位:億円)

区 分	前年度末	令和8年度			
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末
国内債券	5,039	5,147			
国内株式	0	0			
短期資産	39	10			
合 計	5,077	5,158			

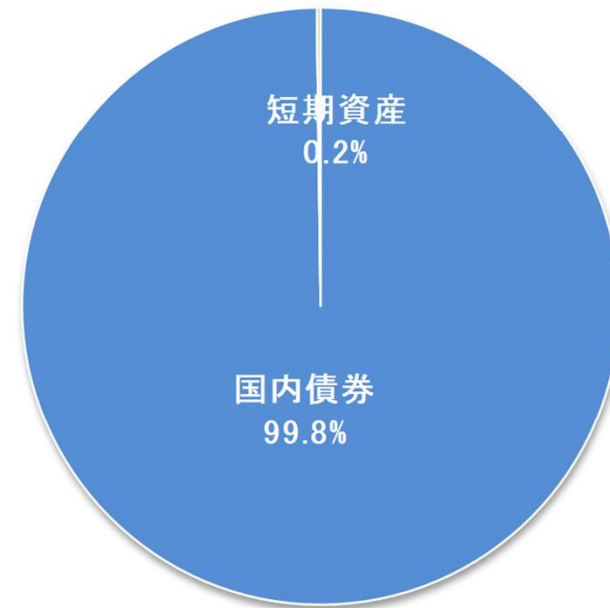
(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 四捨五入の関係で、各数値の合算が合計値と一致しない場合があります。

6. 運用資産別の構成割合

区 分	資産構成割合 第1四半期 (令和8年6月末)
国内債券	99.8%
国内株式	0.0%
短期資産	0.2%
合 計	100.0%

第1四半期 資産構成割合



(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 基本ポートフォリオは、国内債券100%(－10%)、国内株式0%(＋10%)です。

(注3) 四捨五入の関係で、各数値の合算が100%にならない場合があります。